

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

(第二號用紙)

記録 _____

研究実験成績報告

第 号

(船舶造船研究実験)

昭和18年 8月 1日

海軍航海学校

年 月 日 記録者

0504

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

(第二號用紙)

記録

配 布 先	部 数
横須賀鎮守府	3
海軍艦政本部	1
同 第四部	1
同 第六部	1
海軍省軍務局	1
同 教育局	1
海軍軍令部	1
海軍兵備局	2
海軍技術研究所 理学研究所	1
同 造船研究所	1
横須賀海軍工廠 造兵部	1
同 造船部	1
同 航海実験部	1
同 光学実験部	1
呉海軍工廠	2
佐世保海軍工廠	2
舞鶴海軍工廠	2
聯合艦隊司令部	1
第一海上護衛隊司令部	1
第二海上護衛隊司令部	1
海軍砲術學校	1
海軍潜水學校	1
海軍機雷學校	1
海軍航海學校	1
發行廳 保管	10

年 月 日 記録者

0505

第三陸軍技術研究所研究原簿

記録

船舶迷彩実験

研究実験場所	海軍航海学校	研究実験期日	昭和十八年四月 至 七月
研究実験番号	航海校機密才六号 一九一三	研究実験担当者	実験委員
到会通課等、正外	官房機密才一七号	報告作者	同上
目的	主として日本近海に於て行動する船舶の迷彩は如何なる実験研究の爲に必要なる船舶、對潛自衛策、一助の爲に在り		
研究項目	日本近海に於て行動する船舶、對潛自衛上最も適當なる迷彩法 (1) 視認の困難なる船舶に適當なる塗色及其塗彩法 (2) 方向角判定の困難なる船舶に適當なる塗色及其塗彩法 (3) 速度判定の困難なる船舶に適當なる塗色及其塗彩法 (4) 方向角並に速度判定の困難なる船舶に適當なる塗色及其塗彩法は如何なる		
成果	尚研究の要するに大なる効果の期待し難し認めらるるを以て船舶の擬装、偽装は如何なる研究の要す (1) 本実験に使用せる一号色、二号色、三号色、五号色、七号色は接岸航行及び洋航行に於て視認の困難なる船舶に概ね適當な結果を呈し、二号色、五号色は有効なり、特ニ二号色は最も有利なり認めらる		
概要	(1) 一号色、二号色、三号色、五号色、七号色は夜間視認の困難なる船舶に概ね有効なり		
要	(1) 上部構造物及び船首尾の陰影の消去は淡色トスルに要すニ一号色、五号色が可なり (2) 橋上部は淡色トスルに可しニ二号色、五号色が適當に認めらる		
参員	本実験に使用せる二号色、一号色、二号色、五号色、五号色、五号色、五号色を以てするに回実験塗彩法は視認の困難なる船舶に		
長	適當に認めらるるを以て迷彩は如何なる船舶に適用し可なり認めらる		

年 月 日 記録者

0506

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

所見	方位角並=速力判定困難ナシルヲ去=實ニテハ尚 研究ヲ要ス
----	---------------------------------

年 月 日 記録者

0507

63

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 3

(第二號用紙)

記録

船舶迷彩実験

目 次

才一 目 的

才二 研究項目

才三 成 果

才四 附 見

才五 実施經過、概要

{	別紙才一	実験塗色見本
	附圖才一	私和丸大成丸迷彩図
	高 頁	葉

附表才一 才一回迷彩視認実験成績表

附圖才二 才二回迷彩視認実験成績表

附^解才一 実験訓令

附録才二 実験命令

附録才三 実施方案

附録才四 才一回迷彩視認^刊實驗實現方案

附録才五 才一回迷彩視認^刊實驗實現方案

附録才六 才二回迷彩視認^刊實驗實現方案

(目次終)

年 月 日 記録者

0508

記録

船舶迷彩実験

第一 目的

主として日本近海に於て行動する船舶の迷彩を調査する実験研究の爲に迷彩船舶の對潛自衛策の一助となることを在り。

第二 研究項目

日本近海に於て行動する船舶の對潛自衛に最適なる迷彩法

- (1) 視認困難となるに適當なる塗色及其塗粧法
- (2) 方位角判定困難となるに適當なる塗色及其塗粧法
- (3) 速力判定困難となるに適當なる塗色及其塗粧法

第三 成果

- (1) 本實驗に使用せる塗色は別紙第一見本九種類に之を一號色及至五號色と仮稱す
- (2) 委員會に於ける研究並に數回の模型實驗にヨリ方位角又速力の誤認を減らすに適當なる塗粧法を以て結論に到達するに至らず尚今後研究を要す
- (3) 視認困難となるに適當なる塗色並に塗粧法を以て實驗成績概要下記に如く本實驗に使用せる塗色は鼠色に比し有効にシテ特一・二・三・五・號色の塗粧は同共有利にシテ上部構造物即ち帆・陰影を生ずる部分は一號色・横上方は二號色五號色に如く淡色とする可し

年 月 日 記録者

0509

62

第三陸軍技術研究所研究原簿

(第二號用紙)

記録

1) 実験成績概要

実験回次	予備実験	才一回実験	才二回実験
天候	晴稍々濃霧	曇時々小雨	快晴
実験海面	海堡北上海面	浦賀水道至大島北海面	浦賀水道至洲崎南海面
実験船	榆 葦	才七二〇三船国 昭堂丸、清洲丸、五郎丸 親和丸、龍威丸	才一又二四船国 弘和丸、乾瑞丸 大成丸
昼	二号色=比シ稍々 カハルニ良好ナリ	曇天、空色=近以シ 有効=シテ陸地ヲ背影 トシテ視認困難ナ ルコト多ク接岸航路ニ 有利ト認ム	/
	一号色		
間	一、三、四号色=比シ 最良ナリ	同上	ハ太陽ノ背後陸 影ノ奥係=コリ時 時明度大=シテ視 認容易ナルコトアリ 一般=空色=比シ 視認困難=シテ 五号色=比シ稍々 優シク未だ明々= 於テ天空ヲ背影トシ タル場合殆ト船体 ヲ視認ニ得ザルコト ハ太陽極低、奥係 =コリ著シク反射ヲ 生ズルコトアリ
視			
認	三号色		
状			
況			

年 月 日 記録者

0510

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁

記録

		鼠色=比シ有知	陸地背景トシ	
昼	三號色	ナルモ一=號色	合視認困難ナル	
		=比シ稍濃色	ト多ノ陸岸航路	
		過ナル傾向アリ	=有利ト認ム	
向	四號色	一、三、號色=	鼠色=比シ有利	
		比シ視認	ルモ他ノ四色=比シ	
視		稍=容易ナリ	視認最=容易シ	
			ト適當ト認メ難シ	
認			(1)陸地ヲ背景トシ	(1)太陽トノ關係
			場合視認困難ナ	位置=ヨリ視認
状			ルト多ノ陸岸航	状況種々変化シ
			路=有利ト認ム	背後陸地トノ距離
況	五號色		四水色=近似シ難	離及太陽トノ關係=
			舷側下方水面=近	ヨリ時々視認容易
		キ部分等=對シ特	ナルトナルモ一般	
		=有利ナリト認ム	=鼠色=比シ視	
			認困難ナリ	
			(1)8000米以上=於	
			テ天空ヲ背景トシ	
			トテ船トノ船体ヲ	
			視認シ得サルト	
			アリ	
			(1)太陽位置ノ關係=	
			ヨリ着シノ反射ヲ生ズ	
			ルトアリ	
			船首尾部及上部	
			構造物ヲ背景	

年 月 日 記録者

0511

61

第三陸軍技術研究所研究原簿

記録

昼	二号色 五号色		程度=淡色トスルハ 陰景ヲ消去ニ得テ 有効ナリ
間			(1) 橋上方ヲ体達色 程度=淡色トスルハ
視	二号色		植行有効ニシテ殆 トノ視認ニ得ザル
認	五号色		ナリニ号色ニ比 シ五号色ヲ稍之
状			有効ト認ム
況			(1) 煤煙ノ外黒変ニ 易シ
夜		① 日没後視界減少 此場合距離的	日没後船体ヲ見失 スル状況ヲ記ス如シ
間		五軒ニ号色ニ 号色ニ号色ニ号色	眼鏡 遠色 日没後 距 種別 番号 時間 離
視		1項=見失フ	肉 2 22分 6000 米
認		② 曇天ノ暗度	眼 5 25分 5000 米
状		距離四軒ニ号色	七 2 30分 8000 米
況		又四号色ハ視認容易 易ナルニ比テ四色	倍 5 32分 8000 米
		ハ七倍双眼鏡 ニテ斬ク認メ得ル	倍 10 32分 13000 米
		程度ニシテ夜間 色トシテ有効ナリ	

年 月 日 記録者

0512

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

飛	行	機	ヨ	リ	ノ	観	測	状	况	①近距離=於テハ四號色	①上部構造物
										以外ノ四色ハ鼠色ニ比	テ淡色トセルハ
										ニ視認困難ナリ特ニ	有効ナリ
										一ニ號ハ良好ナリ	四船首尾部ヲ
										四遠距離ニテハ帯黒	淡色トセルハ明
										色トテ差異ヲ認メズ	瞭=見え不適
										ハ黒色トナル距離極	ナリ
										不下記ノ如シ	ハ太陽=向キ
											視認スル場
										塗色	合ハ一標=
										番号	黒色=見え効
										距離	果ナシ
										5	7.7
										4	7.0
										2	6.0
										1	5.6
										3	4.5
										②上空ヨリ視認=對	
										シテハ四船上甲板等	
										ヲモ塗色ノ要アリ	

年 月 日 記録者

0513

60

第三陸軍技術研究所研究原簿

記録

		夜間探照灯 =	(1) 有効視距ハ概シ	(1) 肉眼 = 五号色ト
		ヲ照射セザル場合	一、二、五、三号色ナリ	五号色ハ二号色ト
其		一、二、三号色ハ鼠色	(2) 船首尾、曲線部	二号トヲ判別シ
		ニ比シ若干現認	又上部構造物、	得ル最
/		容易ナレト大差ナ	陰影ヲ生ズル部分	概シ6000米ナリ
		ヲ四号色ハ鼠色	ヲ淡色トスルヲ可トス	(10) 二号色又五号色ト
他		又一、二、三号色ニ比シ	(11) 橋其他上部構	鼠色ト判別シ得ル
		シ現認容易ナリ	造物ハ上方ニ至ル	最大距離ハ2000米
			= 縦ニ淡色トナスヲ	ニシテ8000米以内ニ
所			可ト認ム	テハ三色判別明
			(12) 本実験ニ於テ	瞭ナリヲ以テ方位
見			細雨アル場合、	角判別ヲ困難ナリ
			現認状況ヨリ	シム建彩塗色ニ
			推定スルニハ一、二	三号色或ハ五号色
			三、五号色ハ霧中	ト鼠色トヲ以テ推定
			ニ於テ現認困難	スルヲ得ルモノト
			ナリト認ム	推定ス

(1) 実験成績表

附表 第一、第二 = 1通

(2) 耐久力

塗粧商 船司、報告ニ依ルニ記(如)鼠色ニ比シ変色汚損
大ニシテ三、五号色ハ一、二号色ヨリ耐久力稍々大ナル、(如)
橋上部ハ火焚煙、爲異変ス

年 月 日 記録者

0514

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

塗色番號	着色汚損状況	経過日数
一號色	稍白裏ニ荷役場所ハ汚損シ	二ヶ月
二號色	稍白裏ニ後橋ハ煤煙ヲ爲黒裏ニ全 般ニ汚損ノ程度大ナリ	一ヶ月
三號色	稍着色スルモ耐久カ良好	一ヶ月
四號色	稍白裏ス 塗粧後半ヶ月位ニテ一様ニ稍黒	一ヶ月
五號色	著其ノ後ノ変化ハ顯著ナラザルモ 褪色セリ殊ニ橋上部ハ煤煙ノタメ 黒色トナル	二ヶ月半

年 月 日 記録者

0515

59

記録

第四 所見

- 一、本実験 = 使用セル塗色中四号色ヲ除ク他、四色ハ視認ヲ困難ナシムル = 有効ナルヲ以テ速ニ船舶用ニテ採用スルヲ可ト認ム
 - 二、塗粧直後実験セル各実験塗色ハ晴天、場合太陽、反射大ナル外アリシモ塗粧後時日、経過ニ従ヒ塗料、豊色消失シ且ニ反射ヲ生ズル太陽ト關係位置ハ低高度、場合小範圍ニ限定スルルモ以テ其、不利ハ極メテ小ナルモト認ム
 - 三、方位角並ニ速度判定ヲ困難ナシムルニ適宜ナル塗粧法ハ本実験ニ於テ未ダ結論ニ到達スルニ至ラズ尚研究ヲ要ス
 中ニ回実験ノ成果ニ鑑ミルニ二号色或ハ五号色、ノ鼠色、ノ組合セニ彩塗粧法ヲ未ダ発見スルニ至ラザルヲ以テ一方方位角並ニ速度判定ヲ困難ナシムル如キ艦裝上、改善又改良法ニ關シ研究ヲ促進スルニ要アリモト認ム
 - 又カ一未ダ記、如シ
 - ① 前後橋ヲ龍骨線外至ニ反対舷ニ設ク
 - ② 橋ヲ成ルベシ單橋トス
 - ③ 船橋其、他龍骨線ニ直角ナル平面ヲ成ルベシヲ除去ス
 - ④ 船橋其、他龍骨線ニ直角ナル平面ヲ方位角ヲ視認セシムルニ便ス
 - ⑤ 煙突ヲ龍骨線外ニ設クルカ側方ニ傾斜セシム
 - ⑥ 島居形「ツリツツ」ハ成ルベシ又ラ燈ノルカ方向ヲ視認セシムルニ便ス
 - ⑦ 其、他構造物ヲ踏突ス
 - ⑧ 乘煙幕等ニ破襲撃時逃廻策
- 四、本塗色 = 依リ船体ヲ視認シ得リシムルハ不可能ナルヲ以テ橋ノ短縮及項煙ノ廣クハ最モ緊要ナル事項ト認ム

年 月 日 記録者

0516

記録

五洋新塗色ヲ実施スルニハ船舶乗員ノ一部ニ對シ色彩ノ教育ヲ施スヲ要スト認ム

第五實施經過ノ概要

一、實驗準備

- (1) 昭和十八年四月二十六日関係委員ノ一部横濱港在泊中、独逸船「レオブランテ」號ヲ見學ス
- (2) 五月六日関係委員海軍航海學校ニ會合シ從來ノ資料ニ依ル研究並ニ實驗實施ニ關スル打合セヲ行フ
- (3) 五月十五日主務委員海軍航海學校ニ會合シ研究ノ結果第一回委員會ニ於テ方位角並ニ速力判定ヲ困難ナリシムル塗粧法ハ大ナル効果ヲ期待シ得ストノ意見アリ
- 尔後数種ノ模型實驗並ニ相良丸ニ對シ航海學校ニ於ケル觀測成績ニ依ルモ方位角並ニ速力判定ヲ困難ナリシムルニ適當ナル塗粧法ニ関シテハ結論ニ達セズ尚研究ヲ續行スルニ差當リ視認ヲ困難ナリシムル塗色ニ関シ別紙見本ニ依リ一號色乃至五號色、五色、(既定ニ之ヲ高身白ニ塗粧シ一方海軍航海學校練習船「榆木」ニ一號乃至四號色ノ四色ヲ塗粧スル實驗スルコト
- (4) 五月二十五日第一回追加視認予備實驗實施ヲ兼テ(附原簿四)ニ依リ柏葉以方梅田行動中、榆木ニ對シ觀測ノ學白天候晴海上初澄美アリ

年 月 日 記録者

0517

58

第三陸軍技術研究所研究原簿

記録

二、廿一回実験

(1) 六月三日廿一回遠形視認実験実施ヲ豫案(附録ノ五)ニ依リ実施ス當日天候曇時々細雨アリ

(2) 六月七日海軍航海学校ニ委員会合シ廿一回遠形視認実験ノ成果ヲ検討シ北方航路ヲ選定シ、一、二号色及五号色ヲ塗裝スニ更ニ船首尾及上部構造物ノ煙突ヲ一、二号色及五号色ニ塗上ルヲ一、三、四号色及五号色ヲ塗装スニ依リ廿一回実験スルヲ決ス

三、廿二回実験

六月十四日廿二回遠形視認実験実施ヲ豫案(附録ノ六)ニ依リ実施ス當日天候快晴都合ニ依リ下記一部ヲ変更セル外概リ順當ニ経過ス

(1) 馬込潜航艇出動不可能トナリテ一部ヲ省略シ観測ノ補償水道ニ於テ海軍航海学校汽艇ニ依リ実施ス

(2) 護衛駆逐艦ハ出動ヲ取止メテ観測ノ実施セズ

(3) 廿二回船団横濱出港ヲ0900ニ変更セルヲ以テ1200一旦釜山候泊1630出港洲崎南支隊兩ニ於テ実験ヲ実施ス

(終)

年 月 日 記録者

0518

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

別紙中-

塗色見本色並明度表等

一、中一回逆彩視認実験使用塗色

塗色番号	塗色見本	明度	塗板規格名	記事
一号色		42.82	昭奎丸	
二号色		32.38	清州丸	
三号色		25.42	五星丸	
四号色		25.57	親和丸	箭廠式 塗板
五号色		30.52	諾威丸	独船 塗板

二、中一回逆彩視認実験使用塗色

塗色番号	塗色見本	明度		塗板規格名
		測定値	規格	
二号色	水際	27.7	28±1.5	和
色	舷側	29.7	30±1.5	和
二号色		44.8	45±2	
二二号色		64.6	65±2	丸

年 月 日 記録者

0519

57

第三陸軍技術研究所研究原簿

記録

五 号 色	水際 艇側		26.0	26±1.5	大 成 丸
五 号 色	艇側		28.3	28±1.5	
五 一 号 色			43.4	43±2	
五 二 号 色			63.0	63±2	

三. 塗料配合割合表

(一) 基本色

塗料名 塗色番号	堅練ポイント	堅練ポイント	堅練ポイント	割合ポイント	
	紺青	黒	黄	白	
二 号 色	水際	1.7	0.9	23.0	74
二 号 色	艇側	1.7	0.9	23.0	94
五 号 色	水際	2.3	1.3	15.0	100
五 号 色	艇側	2.3	1.3	15.0	102

(二) 淡色部

基本色 塗色番号	二号色	五号色	割合ポイント 白
二 一 号 色	1		1
二 二 号 色	1		5
五 一 号 色		1	1
五 二 号 色		1	5

備考

1. 配合割合は統一重要比で示す
2. 本配合割合は一色を示す。1=2は絶対的、1=非ナル

年 月 日 記録者

0520

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

コ以テ配合 = 際ニテハ極力見本・色 = 合致セシムル如ク
色粉ヲ合ハス外肝葉ナリ

年 月 日 記録者

0521

5/6

第三陸軍技術研究所研究原簿

記録

附表一

造船視認状況調査成績表(天月三日船団=対2ルニ)

時刻	船団航 行位置	背景	距離	視認困難順位(塗色番号=示2) 並=所見	記事
1255	梅屋附 1500	房鏡	4500	2.1.4 距離 9000 未附 15 = 至ルニ	航校
1310	梅屋 至ル	梅岸	4800	上記1他視認 難場 = 差ヲ認	陸上水
	梅屋 3100			2.1(A委員) 2.5.1(B委員) 1.3.2 (C委員) 2.1.5(D委員) 2.1.3(E 委員) 1.2.3(F委員) 2.1(G委員)	梅岸
1350	梅屋附 1500	房鏡山	5500 7000	2.7 上位ヲルニ 1.5. 1.7 上位ル 2ルニ 1.5. 同位置 = 於ルニ 1.7 結合スルバ 2.1.3. 順ナリ	梅
				5.1(A委員) 2.1(B委員) 2.2.1(C委員) 5.1.2(D委員) 1.2(E委員) 1.5.2(F 委員) 1.2.3(G委員) 2.1.5(H委員)	梅
1430	同上	房鏡 梅岸	8000 10000	1.5.2(I委員) 2.1.3(J委員) 1.5.2 (K委員) 1.2(L委員) 5.1.2(M委員) 1.2.5(N委員) 1.2.4(O委員) 1.4.2 (P委員) 1.4.2(Q委員) 1.7 上位ルニ ルニ 1.7. 5.7 上位ルニ 1.7. 2.7 上位ルニ 1.7. 2.7 結合スル バ 1.5.2. 順ナリ	梅 59音
				2.1.3(A委員) 2.1.(B委員) 2.1.3(C委員) 1.2(D委員) 2.7 上位ルニ 1.5. 2.7	梅
1530	梅屋附 1500	空		1.7 上位ルニ 1.5. 2.7 結合スル =	

年 月 日 記録者

0522

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

1530	錦山沖	洲崎 1回		2.1.1 噸+リ 鋼 鋼 和 = 加 7 7 煤 煙 アリ 研 = 距離 遠 + 9 x 判 然 トセガ ルニ 各 委員 1 所 見 7 研 合 スルニ 2.1.3. 4 回 +リ	梅
				1.2 (A 委員) 1.2 (D 委員) 2 (C 委員) 1.2 5 (D 委員) 5 (E 委員) 1.2.3 (F 委員) 1.2	
1610	同上	同上	1600 2200	5 (G 委員) 5.1.2 (H 委員) 1.2.5 (I 委員) 2.1 (J 委員) 2.5 (K 委員) 2.1 駆 借 5 (L 委員) 1.2 (M 委員) 1.7 上 位 ト 5 9 借 2.4 上 1.7. 5.7 上 位 ト 2.4 上 1.7. 2.7 上 位 ト 2.4 上 1.7. 之 7 研 合 スルニ 1.2 5 1 噸 +リ	
				2.5.1 (A 委員) 2.15 (B 委員) 5.12 (C 委員) 1.2.4 (D 委員) 5.1 (E 委員) 2.4 (F 委員) 2.1.5 (G 委員) 1.2 (H 委員) 3.5 (I 委員) 1.2.5 (J 委員) 1.2 (K 委員) 1.2 (L 委員) 同上 1.2.5 (M 委員) 1.2.5 (N 委員) 1.7 上 位 1.2 1.2 上 1.7. 5.7 上 位 ト 2.4 上 1.7. 2.7 上 位 ト 2.4 上 1.7. 2.7 上 位 ト 2.4 上 1.7. 之 7 研 合 スルニ 1.2.5.3 1 噸 +リ	
1800	三崎沖	大島	8000 9000	5.1.2 (A 委員) 1.5 (D 委員) 1.2 (C 委員) 1.2 (E 委員) 2.1.5 (F 委員) 1 (F 委員) I (G 委員) 2.5.1 (H 委員) 2.5.1 (I 委員) 5.2.1 (J 委員) 同上 1.5 (K 委員) 1.2 (C 委員) 1.2.5 (M 委員) 1.7 上 位 ト 2.4 上 1.7. 2.7 上 位 ト 2.4 上 1.7. 5.7 上 位 1.2 上 1.7. 之 7 研 合 スルニ 1.2.5.1 噸 +リ	
日没 時 2 時 1 分		空	7000 8000		

年 月 日 記録者

0523

55

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 //

(第二號用紙)

記録

① 一回逆彩視認実験結果所見

① 各色共葎衝馬艇艦、鼠色、比較スルニ視認困難ナリシム
ルニ有効ニシテ其、有効順位、概シ、(2, 5) 号色ナリ(但シ、1, 2 号
色、同程度ニシテ殆ド差ヲ視メズ)

2. 1 号色ニ号色、共ニ曇天、空色ニ近ク地、色ニ比シ有効ナル
色ト認ム

3. 4 号色、地、4 色ニ比シ視認最モ容易ナリ

4. 1, 2, 3, 5 号色トモ陸地ノ背景ナル場合視認、困難
ナルト多ク操舟艇艦場ニ有利ト認ム

5. 5 号色、背景其、地、1 度係ニヨリ見工具合時ニ変化スルニ
水色ニ近ク艇側ノ方水面ニ近ク部分ニ特ニ有効ナルト認ム

② 各色共本実験時、如ク曇天ニシテハ倍力、倍倍ニテハ帯黒色
トナルニシテハ、5000 米附近以內ニテハ、色形ニ別セテシ、
3, 5 号色、有効ナリ

2. 本実験ニ於ケル如ク曇天、天候ニ於テハ、背景附近ノ外艇
並ニ上部構造物、陰影、爲黒ク見エルヲ以テ淡色ナルヲ可シ
ノ同視認境界減スルニ場合約 5000 米、距離ニテ、5 号色、1 号色
ニ号色、1 順ニ視認困難トナル

③ 復舊 4 号色、視認容易ナルニ地、4 色、1 七部双眼鏡ヲ
用ヒ 4000 米附近ニシテ漸ク認ムル程度ニシテ度内色トシテ
有効ナリ

年 月 日 記録者

0524

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

附表第=

昭和十八年二月二十四日

水=回送彩視認実験成績表其一 (観測艦番号591艦)

時刻	実験船名 (船番号)	距離	景色 番号	視認人数	視認人数 数	各要員所見抜萃	天候太陽 高度及 方向
	1		鼠 陸地	04410	$\frac{11}{5}=2.2$	1. 二号、五号色、八号色 =比ニ見工難ニ輪船	
1010	2	2000	2 同上	36725	$\frac{23}{5}=4.6$	船形、22色、52色 以テセル塗分、効果 大ニシテ陰影ヲ生セズ	高度70°
	3		5 同上	24524	$\frac{21}{5}=4.2$	2. 各船共視認極メテ 容易ナリ	
	1		鼠 同上	80245643	$\frac{27}{5}=5.4$	1. 鼠色、二号色、五号色 三色、判別容易ニシテ二 色ニ依ル「6」7「1」	高度70°
1045	2	4000	2 同上	926887	$\frac{52}{8}=6.5$	効果大ナルモ、認ム 難シ	
	3		5 同上	92477080	$\frac{52}{9}=5.8$	2. 鼠色=比ニ二号及五号 色ハ見工難ニ 3. 船形=二号色及五号 色ヲ以テセル淡色塗色 ハ陰影ヲ生セズ効果大 ナリ 4. 前後陸果、1、距離 大ナルトキハ五号色ヲ可ム	高度70°
	1		鼠 陸地	6056445	$\frac{27}{6}=4.5$	1. 二号色、八号色、背景同 化ニ視認ニ得ルニ22号色 (橋)=アリテハ特ニ然リ	
1100							

年 月 日 記録者

0525

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 12

(第二號用紙)

記録

	2	2	陸軍 8697/06910	55-8.1	2.ニニ号色又五ニ号色 ヲ塗粧セル船首艦	高角 70°
	3	3	同上 84868878	52-7.1	1. 船 = 陰影ヲセズ 3 鼠色、ニ号色、五号色 1 判別セ難クニテ 容易(望遠鏡)ニテ 見ツ可能 4. ニニ号色ハ背景ノ 線部ト全ク同色ト ナリヲ見認シ得ズ 5. 五号色ハ背景ト同色 トナルアリ 6. 船場ノ上方ハニ号 色五号色共ニ見認 困難	高角 50°
	1	鼠	同上 68566/0848	61-6.8	1. 太陽ノ反射ノ色ニ号 色、五号色ハ明度強	
1930	2	2	同上 264241876	46-5.1	ヲ見認容易ナルニ鼠 色見工難シ	高角 20°
	3	3	同上 484346666	45-5.10	2. 3. 4. = ニ号色、五号色 1. 特ニ光ヲ見工全 般ヲ通ジニ号色、五 号色ハ白青ヲ見工 3. 鼠色、ニ号色又五号 色 1 判別肉眼ニテ 容易	高角 25°

年 月 日 記録者

0526

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁

記録

						各部共太陽の射光 受光リテ見ユ
						5 橋上部 1 五号色ハ
						天空 1 船ノト 同色上ハ
						6 5000 呎以上ハ 2 射光
						ルニ 光沢減ニ 8000 呎
						以上ニ至ラバ 光沢著
						シク 減入
						7 2 寸運動中太陽ノ
						2 射光ナリ 塔台背景ノ
						陸地處キテ 鼠色ハ 陸
						トテ 明瞭ニ 見エルニ
						号色ハ 船ノト 見エルニ
						号色ハ 白ク 見エルニ
						8 五号色ハ 太陽ノ 角
						係ニ 依リ 色々 変化シ
						ク 見エ 具合 刻々 異
						ナル
	1	鼠空	7.7	14 2 17		1. 七部ニテ 鼠ニ 号色 五号色 1 判別 不能
						ナル
1950	2	2 空	10.9	17.95 2		2 号色 五号色ヲ 塗粧 セシ 兩船ノ 背景ノ 同
	3	5 空	10.9	17.95 2		色 船ノト 見エス
						3 橋上部 1 二号 五号
						号色ハ 効果大ニシテ

年 月 日 記録者

0527

53

第三陸軍技術研究所研究原簿

記録

							特=五=号色ヲ可 ₁₂	
							背景(物)係上五号	
							色=比シ=号色ヲ可	
							トスルコト多シ	
							(距離 7000 米 = 11500)	
							7 光線及射光等	
							ル場合=号色五	
							号色ハ視認困難)	
	1		鼠	27			1=号色五号色ハ之	
1800	2	8500	2	空			宇運動中太陽向	
	3		5				=アリテ時=角度大ト	
							ナリテ観色ヨリ見易	
							ナリ	
	1		鼠	同	062667	2/6 2.5	日没前後=アリテハ鼠	日没前30
1830	2	8500	2	同	4671086	4/6 6.5	色黒味ヲ帯ビ視認	分=ニテ太
	3		5	同	588877	4/6 7.2	容易ナリト=号色五	陽雲=ハ
							号色又2又色5又色	
							ハ視認困難ナリ	
	1		鼠		107658247	5/6 6.3	肉眼=7鼠色ハ黒味	日没後
1920	2	9000	2	空	977710910	2/6 9.2	ヲ帯ビ判然ト見ユル	20分
	3		5		610707014010	2/6 7.6	=号色ハ見ユル五号色	
							ハ観方=貝工	
							潜望鏡=7鼠色ハ	
							平ニテ見ユルニ=号	
							色五号色ハ全ク見	
							ユル	

年 月 日 記録者

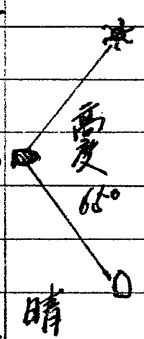
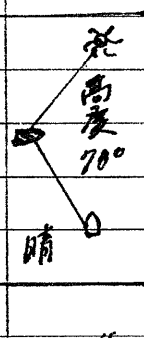
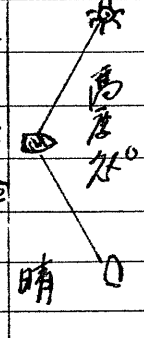
0528

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

第一回迷彩視認実験成績表其(一) (昭和十八年二月二十四日 観測船板橋汽船)

時刻	実験船名 (船番)	距離	景色	背景	視認状況		各員所見概要	天候太陽 高度方向
					各1人	改善平均 回数		
	1		鼠	空	62564666	5/5 = 1.0	1. 2号色優良 5号色	
1010	2	5200	2	同上	97999999	22/9 = 2.6	稍々白7見	 高度 65° 晴
	3		5	同上	750798787	62/9 = 7.0	2. 緑色ハ他1=色=	
							比三視認容易 3. 二一五号色1動 果実ハハ光線 反射=快ク白視 2ハハハ	
	1		鼠	陸地	625646354	37/9 = 4.1	同上	 高度 70° 晴
1030	2	4300	2	同上	9889991098	22/9 = 2.5		
	3		5	同上	878877776	65/9 = 7.2		
	1		鼠	同上	765666596	54/9 = 6.0	1. 二五号色ハ背景	 高度 75° 晴
1100	2	5500	2	同上	10981077999	60/9 = 6.7	ハ綠色=似テ視	
	3		5	同上	979976888	20/9 = 2.2	認困難ナリ 2. 2号色ハ綠色ハ陸 岸ヲ背景トスル場合 優良 3. 各色共背景=似テ 視認困難	

年 月 日 記録者

0529

52

第三陸軍技術研究所研究原簿

(第二號用紙)

記録

	1		銀	同上	826786656	$\frac{51}{7} = 7.3$	1. 銅色、淡+鈍色	
1145	2	8000	α	同上	1091099999	$\frac{52}{7} = 7.4$	3. 暗果、L2の場合弱	※
	3		γ	同上	987888888	$\frac{28}{7} = 4.0$	良好	高度
							α = 号色、遠+165 =	90°
							混) 淡棕色、陸岸	晴
							3. 符号、L2 視認	
							困難	
							3. 上部構造物、淡	
							色、セル、有効、	
							4. 五号色共視	
							認困難	

目没後、状況

(肉眼)

二号色目没後 三十分距離 8000米 = 見失

五号色目没後 三十分距離 9000米 = 見失

(7倍双筒眼鏡)

二号色目没後 三十分距離 8000米 = 見失

五号色目没後 三十分距離 9000米 = 見失

緑色目没後 四十分距離 13000米 = 見失

備考

視認率、下記標準 = 依り、視認困難 + 状況の程度

= 底にシ付與セル、+

視認困難 = シ最遠ト認セル、----- 10

視認困難 = シ適当ト認セル、----- 9~8

視認稍々困難トセル、----- 7~6

視認容易 = シテ、適当ト認セル、----- 5~4

年 月 日 記録者

0530

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

視認極々容易ニシテ不適當ト認めルニ至ル者 3~0

又、其他

○ ----- 観測者

◎ ----- 実験船

※ ----- 太陽

昭和18年6月24日

第一回迷彩視認実験成績表 其(三) (観測所飛行機)

航空機上より観測セル視認状況ハ視認方向高度等ニ依リ

観測者各人ニ依リ差異アリト主ニ視認状況ニ依リ

下記ノ如シ

(一) 距離 6000 米以上ニ於テ太陽ニ向テ逆光線ニテ見ルトハ各色共黒色ニ見エ塗色ノ差ヲ認メズ

(二) 陸地或ハ海面ヲ背景トシテ順光線ニテ観測セル場合ハ鼠色ハ視認極々困難ナルニ号色、五号色ハ視認容易ナリ

(三) 3000 米附近ニテ逆光線ニテ観測セル場合鼠色ハ漠然ト見ル状況ニ於テニ号色、五号色ハ空ト同色ニ見エテシテ外ニ空ヲ背景トセル場合ハニ号色、五号色ヲ可ク

(四) 3000 米附近順光線ニテ船艦前面及船首ノ部分ノ光リヲ見エシテアリ

(五) 上部構造物ヲ淡色トセルハ前回ノ実験ト比較シテ有効ナリ

(六) 船首尾ノ淡色セルハ視認極々容易ニシテ不適當ナリ

(終)

年 月 日 記録者

0531

51

記録

逆色彩視認実験 綜合所見

- 一、天候快晴、場合太陽・向ヲ見ルトハ、陰影ノ各色彩ハ、僅少ナルニ、五号色ハ、靨色ニ比シ淡ク見エ通當ナリ
- 二、天候快晴ニシテ陸地及天空ノ背景ナル場合ニ、五号色共ニ靨色ニ比シ一般ニ困難ニシテ状況ニ依リ殆ドノ視認ニ得カルナルニ、太陽ノ高度及方向ノ視認方向ノ関係或ハ指筈陸地ノ距離ニ依リ著シク反射ヲ生ジ或ハ明度大ナル時ニ、靨色ノ視認困難ナル現象ヲ呈スルコトアリ
- 三、一号色ハ、五号色ニ比シ稍々優レセリト認ム
- 四、夜間色トシテハ、五号色共ニ靨色ニ優リ二号色ヲ稍々有利トス
- 五、二、五号色ハ、太陽ノ反射ナル場合視認容易ナルナルコト以テ反射防止法ニ関シ更ニ検討ヲ要ス
- 六、構上部構造物ノ淡色トセルハ、天カ架大ニシテ本実験ニ使用セル淡色概シ通當ナリ、構上部ノ淡色ハ、五、二号色ヲニ号色ニ比シ稍々有利ト認ム
- 七、船首尾ノ淡色トセルハ、日カニ却ツテ反射ナルコトアルニ、一般ニ陰影ヲ描去ルコト得テ有カ方ニシテ本実験ニ使用セルニ、一、二号色ヲ優当ト認ム
- 八、飛行機ノ視認ナル場合陸地大場面ヲ背景トスルトハ、靨色ノ優劣ナルニ、概シ背景天空ナル場合ハ、二、五号色ヲ可トシテ上部構造物ヲ淡色トセルハ、視認困難ニシテ有カ方ナルニ、船首船尾ノ淡色部ハ、明月ノ際ニ見エ不通當ナリ

(終リ)

年 月 日 記録者

0532

記録

附録第一

官房備機密第一一七號 横鎮機密第一〇號ノ七六
昭和十八年四月二日 海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官殿

呉鎮守府司令長官殿

船舶ノ塗彩ニ関スル実験研究ノ件訓令

○横須賀鎮守府司令長官ハ左記ニ依リ船舶ノ塗彩ニ関
スル実験研究ヲ為スベシ

○呉鎮守府司令長官ハ横須賀鎮守府司令長官ノ協
議ニ應ジ部下職員ヲシテ右ニ協カセムベシ

記

目的

主トシテ日本近海ニ於テ行動スル船舶ノ塗彩ニ関スル
実験研究ヲ為シ速ニ船舶ノ對潜自衛策ノ一助ヲラ
シムルニ在リ

ニ実験研究ヲ為スベキ期間

自昭和十八年四月至昭和十八年七月末日

ニ実験研究項目

日本近海ニ於テ行動スル船舶ノ對潜自衛上最
適當トスル塗彩法

(イ)視認ヲ困難ナラシムルニ適當ナル塗色及其塗
粧法

(ロ)方向位置判定ヲ困難ナラシムルニ適當ナル塗色及其塗粧法

(ハ)速力判定ヲ困難ナラシムルニ適當ナル塗色及其塗粧法

四 実験研究委員

左ノ範囲中横須賀鎮守府司令長官ノ指定スル委員

年 月 日 記録者

0533

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

五ノ入

- (1) 横須賀鎮中府部下職員
- (2) 海軍潜水学校職員
- (3) 海軍省及軍令部職員
- (4) 速原右衛門保職員
- (5) 其他参加人等(部外者を含む)

五 実施要領

横須賀鎮中司令官長官定例所 = 決り

六 所要資材及經費

- (1) 資材は横須賀海軍工廠の支給に
- (2) 經費は請求書提出後別に造面交付

七 報告

- (1) 中間報告提出期日 昭和十八年五月十五日
- (2) 終了 昭和十八年八月十日
- (3) 右1外成果を得ない場合は、其都度

終

年 月 日 記録者

0534

49

記録

附録第二

横須賀鎮守府命令第一一四号

昭和十八年四月十日

横須賀鎮守府司令長官 古賀第一

横須賀鎮守府命令

左=依り官房備機密第一一七号訓令取指し

迷彩=周又ル実験研究ヲ実施ス

一 委員長

海軍航海學校長

= 委員及 委員附

別 = 定ム

三 参加艦艇及船舶等

(1) 部下艦艇

横須賀鎮守府研究實驗事務取扱規程

第十五條所定トス

(2) 西方航路就航一般船舶

行動作業等、細目=周シテハ委員長ヨリ

或程關係、向=協儀スルモノトス

四 実施要領

実験研究実施、場所ヲ在(通)是以外、委員長

長所定トス

東京海灣駿河湾伊勢湾瀬戸内海東部

及西方航路(東京湾紀伊水道内)近海

五 其他

官房備機密第一一七号訓令所定通り

終り

年 月 日 記録者

0535

記録

附録第三

航技教機密字二号一九一一

官房瑞機密字一一七号訓令機密技須賀候村

命令字一四号=依ル船舶速彩=由ル実験.

研究実施方案在通り定ム

昭和十八年五月元日

速彩実験研究要員表 三川輝一

船舶速彩技実験研究実施方案

一. 目的

主トシテ日本近海=於テ行動スル船舶ノ速彩=由

ル実験研究ヲ爲シテ=對潛自衛ヲ策一ヨリシテ

シムル=在リ

二. 研究項目

日本近海=於テ行動スル船舶ノ對潛自衛上最モ

適當トシテ速彩ヲ

(1) 視認ヲ困難トシシムル=適當トシテ塗色又其ノ塗

粧ヲ

(2) 方位角判定ヲ困難トシシムルヲ、塗色又其ノ塗粧ヲ

三期 日

自昭和十八年四月

至昭和十八年七月末日

四. 実施方針

(1) 豫備実験

適當トシテシムル塗色技=由テ研究案到テ模型=

速彩ニ船舶ヲ模シテ=テ視認状況ヲ調査シテ

速彩ノ輸華又ハ汽動機=塗粧実験ノ上適當

年 月 日 記録者

0536

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

此方式ヲ決定ス

(四) 实地試験

系海又ハ神戸出港船舶中在、船種ニ実施ニ
備置水道特設見張所附近及入港地附近通
航時水上艦艇、潜水艦、航空機、砲術学校
側的所及特設見張所ヨリ各種状況ニ於テ
視認状況ヲ調査シ其効果ヲ判定スルニトス

(一) 速移実施船舶型式

(一) スリーアイランド型

(二) フラッシュエテツキ型

(三) アフターエンジン型

年 月 日 記録者

0537

47

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 19

(第二號用紙)

記録

五 作業豫定及び擔區分

(一) 委員会並ニ研究会

其ノ都度決ム

(二) 実験

五月中旬第一回豫定実験

五月下旬第一回実験討議ノ豫定ニ依リ其ノ成果

ニ依リ其ノ都度決ム

(三) 分擔區分

分擔區分	実施處	委員
		航海校委員、砲校委員
		横須賀廠委員、技研委員
運轉型式		砲務院関係委員
集刺		横空委員、空技廠委員
		潜航委員、水潜委員
運轉法	横廠	横廠委員、技研委員
	砲務院	砲務院関係委員
視認実験		委員一般
報告作製		航技主務委員
		砲務員主務委員

軍入バ主務委員ハ各部ニ於テ委員会ヲ南進時

研究事項ヲ總委員會ニ提出スルモノトス

六 報告

実験經過概要成果並ニ所見中向報告ヲ昭和十八

年五月三十一日最終報告ヲ昭和十八年七月十五日迄ニ

提出ス

年 月 日 記録者

0538

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

七. 委員又委員附 (OFPハ各内録. 麻王務委員7亦2)

特務分擔	官	氏	名	所轄
	梅年大佐	佐々木	靜吾	航 校
	同	今村	了之助	梅務院
	同	清水	太郎	海 校
	同	橋原	有吾	天 海
	同	磯部	三男吉	海在武
	同	下村	敬三郎	名在武
	同	藤永	三郎	東在武
	同	細	久米太郎	神在武
	梅年中佐	平田	勉	艦 本
	同	宮田	栄造	航 校
	同	岡	三知男	機雷校
	同	内田	定五郎	空 校 廠
報本 国員 起幹 草事	同	志和	彪	航 校
	同	森	實	横 空
	同	中村	辰次	教 育 局
	同	南	大右衛門	軍務局
	同	笠井	利男	横 廠
	同	志摩	庚子郎	航 校
	同	三浦	義四郎	水 路 部
	同	島本	信政	航 校
	同	須田	佳三	空 校 廠
	同	俵屋	實	航 校
	同	魚住	頼一	軍 令 部
	同	高橋	仁四郎	横 防

年 月 日 記録者

0539

46

第三陸軍技術研究所研究原簿

記録

	海軍中佐	宮崎 勲	兵備局
		黒田 吉郎	横砲校
		辻 団次	横雷校
	海軍少佐	三瓶 寅三郎	横雷校
		平野 泰次	伊勢防
		宇野 憲男	潜水校
		井口 業史	横空
		崎長 嘉郎	空技廠
		川村 匡	同
幹事		臺岐 密勝	航校
		高橋 勝	空技廠
		信谷 乙一	航校
		富岡 忠雄	横雷校
		米原 綱明	横空
		竹下 峰吉	横雷校
		伊藤 素衛	横空
	海軍大尉	中村 直三	六談
		瀬戸口 熊助	空技廠
		齊藤 英次	空技廠
		城戸 保雄	六談
		長島 博三郎	横空
		宇都宮 道生	空技廠
		中川 俊	横空
		五川 惣之助	横空
		飲川 香嘉	横防戦
		坂本 松三郎	航校

年 月 日 記録者

0540

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

	海軍大尉	石井	金藏	横 防
	海軍中尉	和由	恒次	六 替
		川本	昇	同
		藤原	貞郎	横 防
		明石	久満衛	航 校
	海軍少尉	堀井	正治	同
	海軍技術中佐	塩山	策一	横 廠
	海軍技術大尉	吉田	隆	艦 本
		橘	弘毅	横 廠
		安栗	孝光	同
		磯貝	頼男	同
		中野	和雄	空技廠
	海軍技師	岡本	英雄	技 研
		宮川	秀人	横 廠
	海軍技師	小嶋	慶助	伊勢防
		渡辺	兼吉	濱在武
		藤田	義一	航 校
		佐藤	若作	東在武
		庄司	力作	名在武
	海軍技師	小宮山	純造	空技廠
		新 広	隆造	横 廠
		森下	樹吉	同
	海軍技師	大島	虎男	同
	技 師	長屋	干 康	海路院
	教 授	井 南	貢	練馬等兩校
	同	宮下	孝雄	練馬等兩校

年 月 日 記録者

0541

45

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 2

(第二號用紙)

記録

審判官	田中 長之助	世界船員審判所
	須川 邦彦	元東亞海軍造船
	若田 直徳	船舶運管会
	吉武 嘉一	造船洗剤会
	藤村 恒一郎	
	西川 植彦	海軍振興会
	高田 正夫	日本郵船会社
	元田 乾行	查 家
	香藤 定藏	
	岡田 利輔	神戸在

年 月 日 記録者

0542

記録

附録第四

航校教機第六号、九一五

昭和十八年五月十七日

迷彩実験研究委員長 三川軍一
第一回迷彩視認豫備実験実施方案

一. 目的

航校学校練習船(第一号)塗色=船舶、視認
の困難+ラシムル塗色の研究ニ付

二. 期日場所

期日 五月二十三日 (豫備五月十八日)

観測所 航校校庭(本牧海岸附近)

三. 委員分擔

観測所	委員分擔	記事
航校校庭	志和 中佐、坂本 大尉、 篠田 兵曹長、下士官 2名	其他事項ハ過 宜左記観測所
本牧海岸	高坂 中佐、堀 中尉、下士官 2名	=> 観測調査ニ

四. 塗色

第一号 右舷 塗色試才一号 左舷 塗色試
才二号

第二号 右舷 塗色試才三号 左舷 塗色試
才四号

年 月 日 記録者

0543

24

記録

五 葦 榆 行 動 豫 定

回次	発動予定時刻	発動 處	観測所(測)距離	針路	観測塗色番号
1	1300	東端北、北50度東4000米	約6000米	巨	第一、三号
2	1320	東端北、北75度東8500米	約10000米	W	第二、四号
3	1410	東端北、北40度東7500米	約10000米	巨	第一、三号
4	1430	東端北、北60度東11500米	約13000米	W	第二、四号

(1) 視界、状況 = 依り変更スルコトアリ

(2) 右以外當日葦榆ハ0900頃ヨリ海堡以此 =
アリテ概テ東西方向 = 行動ス

六 成績 調査

参加委員委員附ハ別表様式調査表ヲ
提出スルモノトス

七 雑件

當日 1230 横須賀驛発自動車ヲ準備ス
(終)

別表

迷彩視認状況調査表

観測委員名

時刻	塗料船名	舷	塗料番号	視認、難易、天候、太陽、高度、並 = 向其他各項事項
所見				

年 月 日 記録者

0544

記録

附録才五

航校教機密才六号一九一七

昭和十八年五月二十六日

迷彩實驗研究委員長 三川軍一

第一回迷彩視認實驗実施案左通ト定ム

才一回迷彩視認實驗実施案

一. 目的

船舶、視認ヲ困難トシムル適當ナル塗色ニ
關シ船舶ニ塗粧シ實驗研究スルニアリ

二. 期日及ビ場所

自昭和十八年六月三日) 7603船因横濱ヨリ限
至昭和十八年六月五日) 神ニ至ル航海中

三. 實驗船名並ニ塗色等

船番号	實驗船名	船名符字	塗色仮番号
2	昭實丸	J A R R	塗色試第一号
1	濟州丸	J S W S	同 才二号
5	五星丸	J W R R	同 才三号
3	翔和丸	J A W R	同 才四号
4	諾威丸	J W W D	同 才五号

四. 實驗船団行動予定

六月三日 1230 横浜出港 四日 0900 頃入玉
崎同日 1800 頃 潮岬沖通過, 予定

五. 實施要領

一、實驗船団横濱の段沖方面ニ航途中本實驗、
實施スルニシテ視認船(所)ニ於テ左様視
認状況ヲ調査ス

年 月 日 記録者

0545

43

第三陸軍技術研究所研究原簿

記録

観測

観測船(所)	委員	行動並=機務実施要令領
新 幕	东尔横須賀方面	捕 留水道附近
下滿洲隊附船	左隊委員分系	概不天敵水隊、一船、
船 艇	2	行動ヲ共=2
	潜水艦由原委員	一、劍崎灯台附近川内子元灯
潜水艦	並=东尔横須賀	台附近=至心向=於=実
一 船	方面左隊委員、	験船圖、北方五軒及至十五
	一部	軒ヲ適宜行重方観測入
		二、行重、中期及終期=於テ
		潜水艦観測入
横空警戒艇	横空委員	適宜観測入
行機		
		一、哨戒艇、実験船圖=認メ
		外場合各種、距離=於
		テ一視認状況ヲ調査シ
紀伊水道		様式=依リ成績表ヲ調
哨戒船艇		製シ委員長=送付スルモノ又
		=実験船圖哨戒船艇ヲ認
		メ外場合各艇、番号旗ヲ
		以テスル塗色番号及船名
		符番号ヲ掲揚ス
一、右、外航海学校委員、一部及下士官各一名、航海		
学校及坂が島灯台附近=テ観測入		
二、委員、実験終了後成ル可ク速=別表、様式=依リ成		
績表ヲ委員長=提出ス		

年 月 日 記録者

0546

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

不詳件

(1) 観測艦艇出港時刻及入便等(注)ニヨリ
= 注ニ所要(向) = 通知ス

(2) 天候、状況 = 依リテハ当日ノ実験ヲ翌日 = 延期ス
翌日実施不能、場合可実験ヲ取止メ船団ハ出
港ス

(3) 三月三日0900横浜地方在勤海軍武官府 =
於テ船団会議開催予定

(4) 護衛艦定派出、場合ハ海軍航海学校
委員一名及下士官一名之 = 乗艦ノ予定

年 月 日 記録者

0547

42

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 28

(第二號用紙)

記録

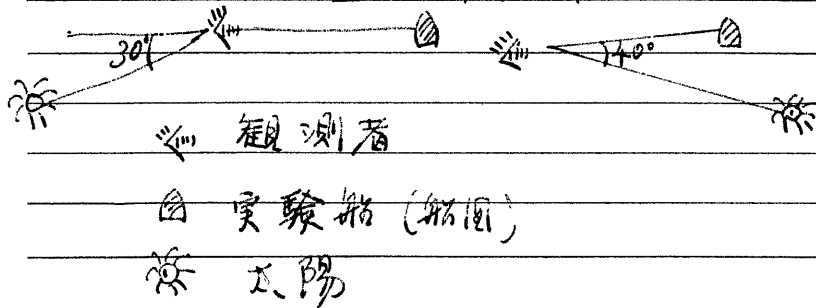
別表

迷彩視認状況調査成績表 昭和 年 月

時刻	実験船名 船名船番号	観測所		距離	視認状況 視認率	天候太陽 位置
		向 船名	塗色彩			
	()					
	()					
	()					
	()					
	()					
	()					
所見						

記註要領

1. 視認、難易其、他参項事項欄ハ、発見或ハ見失キル時、距離並ニ其、視認状況各種距離ニ於ケル他、塗色船ト、視認状況比較天候並ニ太陽、関係位置ニヨリ視認状況其他参項事項ヲ細大トク記註スルモトス
2. 太陽、高度並ニ向方欄ハ観測者並ニ実験船ト太陽向、関係位置ヲ記録シテ記形式ニ依ルヲ得



年 月 日 記録者

0548

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁

記録

3. 所見欄ニハ下記事項ニ依ル所見ヲ特ニ希望ス

(1) 各塗色中、最良不良ト認ムル塗色並ニ改善案

(2) 種上部構造物船体等ニ付テ最良ト認ムル塗色
配敷敷機密ヲ六号、九、一〇

観測艇行動並ニ委員配案区分

一、観測艇行動予定

観測艇名	行 動 予 定
榎 号	1130 横須賀港外發、實驗船團西方ニ適宜行動観測後、1530 頃實驗止メ横須賀へ歸投ス (1930 頃入港)
足立五劫音水艇	1330 横須賀出港、第四十三號駆浪艇、第五十九漂川順ニ實驗船團、西方ニ適宜行動、1600 劍崎灯台南四湫ニ達ス
羽田三号	此後實驗船團、北方五ノ新及至十五ノ新ニ適宜行動、17 15 實驗終了、館山便泊委員ハ陸上ニ宿泊ス
配督艇	

二、交通艇

左ニ依リ航海學校汽艇ヲ派、出ス

(1) 榎号行..... 1230 逸見發、第五十九

漂、第四十三號駆浪艇..... 1300 逸見發

(終)

年 月 日 記録者

0549

41

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 26

(第二號用紙)

記録

附録第六

校教機密第六號、九、二八

昭和十八年六月十六日

迷彩實驗研究委員長三川軍一

第二回洋彩視認實驗實施方案

一. 目的

船舶、視認困難ナラシムルニ適當ナル塗色ニ関シ
實驗研究スルニシテ

二. 期日及場所

自昭和十八年六月二十四日(第1624船団)横濱ヨリ
至昭和十八年六月二十八日(釧路)至ル航海中

三. 實驗船団並ニ觀測艦艇

實驗船団	
	横防戰駆逐艦一隻
觀測艦艇(機)	呂第五十九號潜水艦
	護衛駆逐艦
	横空飛行機

四. 實驗船団行動予定

六月二十四日1200横濱出港野島埼灯台南三十
度西十三哩野島埼灯台南十度西十一.四哩、
地奥ヲ通過シ汝故指令航路ヲ航行ス

年 月 日 記録者

0550

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 _____

記録

五 観測艦艇行勅線定並實驗要領

観測艦艇名	行勅線定並實驗要領
駆潜艇	1300横須賀出港實驗船団、西方ヲ 機宜行勅1700頃州、埼灯台南五〇 度西八・五涅附近ニ船団、北方五新 及至十五新ヲ機宜行勅1945實驗終 了館山ニ假泊委員八陸上ニ宿泊翌日 0800出港、駆潜艇ニ便乗歸校ス
呂五九 汽	航海學校委員一免下士官一免京艦 船団護衛中観測ス
護衛駆逐艦	適宜、時機観測ス
機空飛行機	

委員八行勅中船団視認狀況ヲ調査シ實驗終
了後成ル可ク速ニ別表様式ニ依リ成績表並ニ所
見ヲ委員長ニ提出スルモノトス

六 雑 件

- (1) 實驗船名塗色等ハ別ニ定ム
- (2) 天候不良ナル場合ハ狀況ニ依リ館山ニ假泊天候
恢復ニ待テ
- (3) 委員京艦(艇)区分ハ別ニ定ム
- (4) 下記ニ依リ観測艦艇行交通便(航海學校汽船)
ヲ派出ス

1200航校發 1230逸見発

(各)

年 月 日 記録者

0551

40

第三陸軍技術研究所研究原簿

頁 21

(第二號用紙)

記録

迷彩實驗船名並塗色等

船番號	實驗船名	船名符字	塗色假番號		
			舷側	上部	橋上部
2	弘和丸	TPVA	二號	二一號	二二號
3	大成丸	TFVB	五號	五一號	五二號
1	乾瑞丸	TESB	鼠	同左	同左

年 月 日 記録者

0552